

山の農園で福島原発事故による環境放射能汚染の実態を知る

主な取組の概要（案）

- ①農園の生活環境における汚染実態を知る
- ②農作物への放射性セシウムの移行状況を知る
- ③農園周辺の自然環境の汚染実態を知る



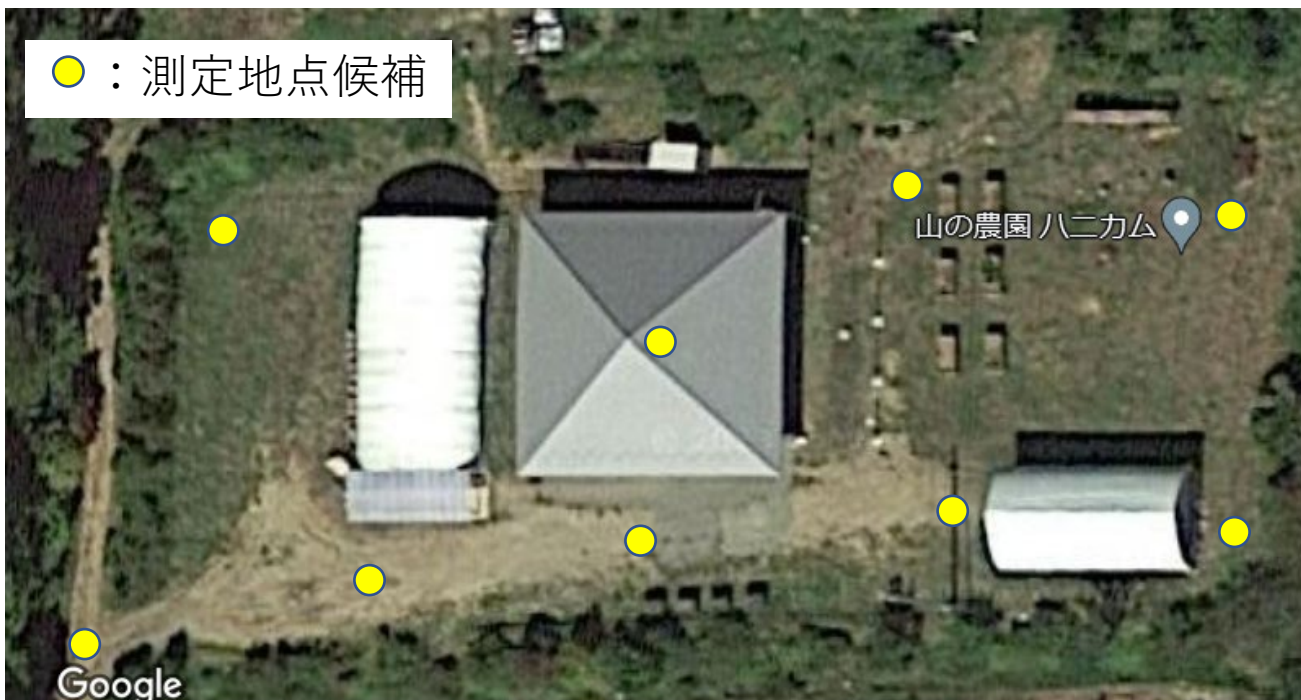
①農園の生活環境における汚染実態を知る（6月～11月）

実施内容：

- ・ NaIシンチレーションサーベイメーターを用いて、農園建物周辺の空間線量率を測定
- ・ 測定高さは、地表面1 cmと1 0 0 cm
- ・ 測定地点は、敷地の境界と普段多くの時間を過ごす場所

汚染状況の実態を把握するとともに、測定地点（高さ）による線量率の違いについて考える

●：測定地点候補



NaI(Tl)シンチレーションサーベイメーター

- ・ 測定方法・記録は環境省除染関係ガイドラインに準拠
- ・ 代表地点を選定し、毎月の定期測定を実施

②農作物への放射性セシウムの移行状況を知る (7月以降継続的に実施)

実施内容：

- ・測定対象：農園での栽培作物全般（ただし、1測定当たり300g以上必要）、栽培土壌、地下水
- ・測定方法：郡山市保健所での検査（測定検出下限値未満の場合、福島拠点での再測定も検討）

栽培作物の汚染の有無、汚染実態を把握するとともに、栽培土壌からの放射性セシウムの移行状況を知る。



③農園周辺の自然環境の汚染実態を知る (9～11月実施)

実施内容：

1) 林内の空間線量率の測定

- ・スギ林と落葉広葉樹林、それぞれの林内で場所（斜面上の位置など）別に地表面高さ1cmと100cmの空間線量率を測定

2) 土壌や林産物の放射性セシウム濃度の測定

- ・スギ林と落葉広葉樹、それぞれの林内で森林土壌を深度別（落葉層、土壌0-5cm、5-10cm、10-20cm）に採取し、放射性セシウム濃度を測定
- ・山菜や食用野生キノコを採取し、同様に濃度を測定
- ・放射能濃度測定は、出来る限り郡山市保健所での検査を活用。難しい場合は、福島拠点での測定を検討。

身近な自然（森林）の汚染状況を把握し、農園内との比較も含めて環境放射能汚染とそれによる様々な課題を考える